

日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

2012年度NO. 30

2012年10月30日 日本共産党埼玉県議団

上田知事に2013年度予算に対する党県委員会と県議団の161項目の要望書を提出

日本共産党埼玉県議団（柳下礼子団長、村岡正嗣議員）と日本共産党埼玉県委員会（小松崎久仁夫委員長）は本日30日、上田清司埼玉県知事に「2013年度埼玉県の施策並びに予算編成に対する重点要望・提案」を手渡し、懇談しました。

今回提出の「重点要望・提案」は▽東日本大震災被災地・被災者支援と防災対策▽福祉・保健・医療の充実など10分野161項目です。



震災の教訓は、日頃から福祉や医療を充実させ備えること

懇談には日本共産党からは小松崎県委員長と柳下、村岡両議員が、県側は上田知事、塩川修、広畑義久の両副知事らが出席しました。席上、小松崎県委員長は、「消費税増税法案が成立し県民は大変不安を抱いている、国政が混乱する中、県政への要望が切実にな

っている」とあいさつしました。柳下県議は「東日本大震災の教訓は、災害に強いまちをつくること、日頃から福祉や医療を充実させ備えることだとして、独立行政法人西埼玉中央病院の周産期医療の再開に県としても全力を尽くしてほしい」と話しました。村岡県議は県南地域にとって調整池は貴重な緑地であり、憩いの場所として整備していくために県がリーダーシップを発揮して、関係者の協議会をつくってほしいと要望しました。

「いつも厳しい指摘をいただいているが、役に立っている」（知事）

知事は「柳下県議はじめ共産党県議団にはいつも厳しいご指摘をいただいているが、県政に役に立っているし、暖かみも感じている。周産期など特定の部分に医師不足が現れてしまっているが、当面ネットワークの活用でカバーし、その間になんとか医師や研修医を本県に寄せたい」と語りました。

要望の全項目は、恐縮ですが県議団HPをご覧下さい。

<http://www.jcp-saitama-pref.jp/>